

福井県内の介護事業所における認知症の方の社会参加に関するアンケート調査結果

I 調査の概要

1 経緯および目的

近年、はたらくデイサービス「DAYS BLG!」の誕生や老人ホームで有償ボランティアに取り組む事業所があり、認知症の方の社会参加が全国的に広まりつつある。本アンケート調査では、県内の介護事業所における認知症の方の社会参加の状況および課題等を把握し、認知症になっても自分らしく過ごすことのできる社会参加の場の拡大や多様化を図ることを目的として実施した。

2 実施主体 福井県長寿福祉課

3 実施期間 令和6年2月28日（木）～令和6年3月19日（火）

4 調査対象および調査方法

（1）調査対象

県内で下記サービスを扱う介護事業所（LEMSCARE で検索、令和6年1月末時点）

① 通所介護（デイサービス）	194 件
② 地域密着型通所介護	83 件
③ 認知症対応型通所介護	41 件
④ 認知症対応型共同生活介護（認知症対応型 GH）	103 件
⑤ 通所リハビリテーション	84 件
合計	505 件

（2）調査方法

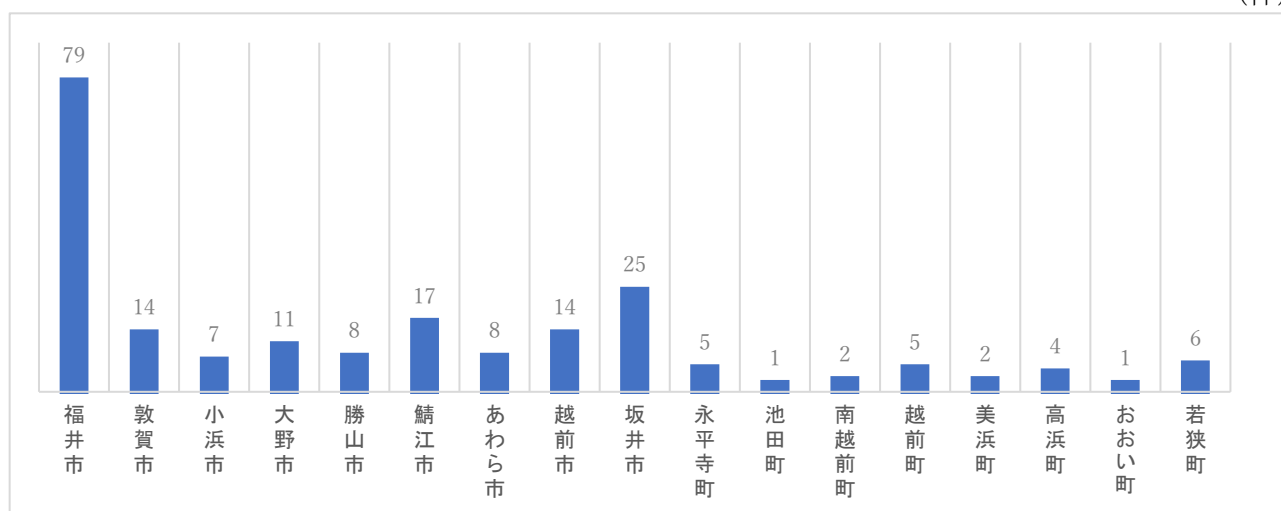
メールで調査票を送付し、Microsoft forms、メール、FAX いずれかの方法で回答
（※通所介護・通所リハビリテーションは県より送付、左記以外は市町経由で送付）

Ⅱ 結果

1 回答状況 回答数 209 件（うち対象事業所 206 件、回答率 40.7%）

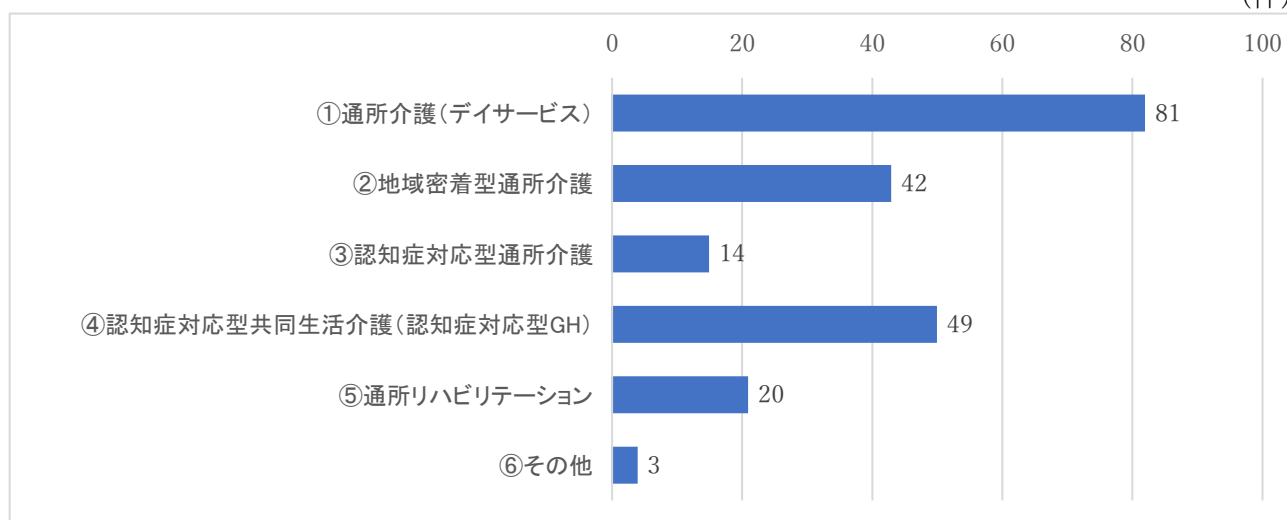
（１）地域別内訳（N＝209）

（件）



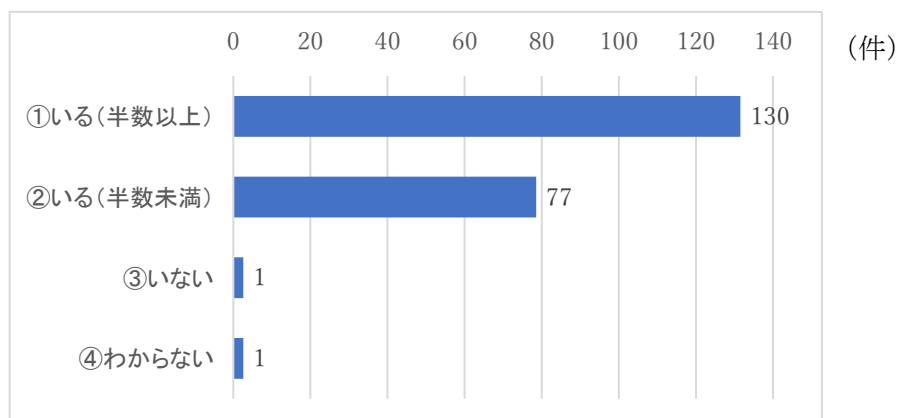
（２）事業の種類別内訳（N＝209）

（件）

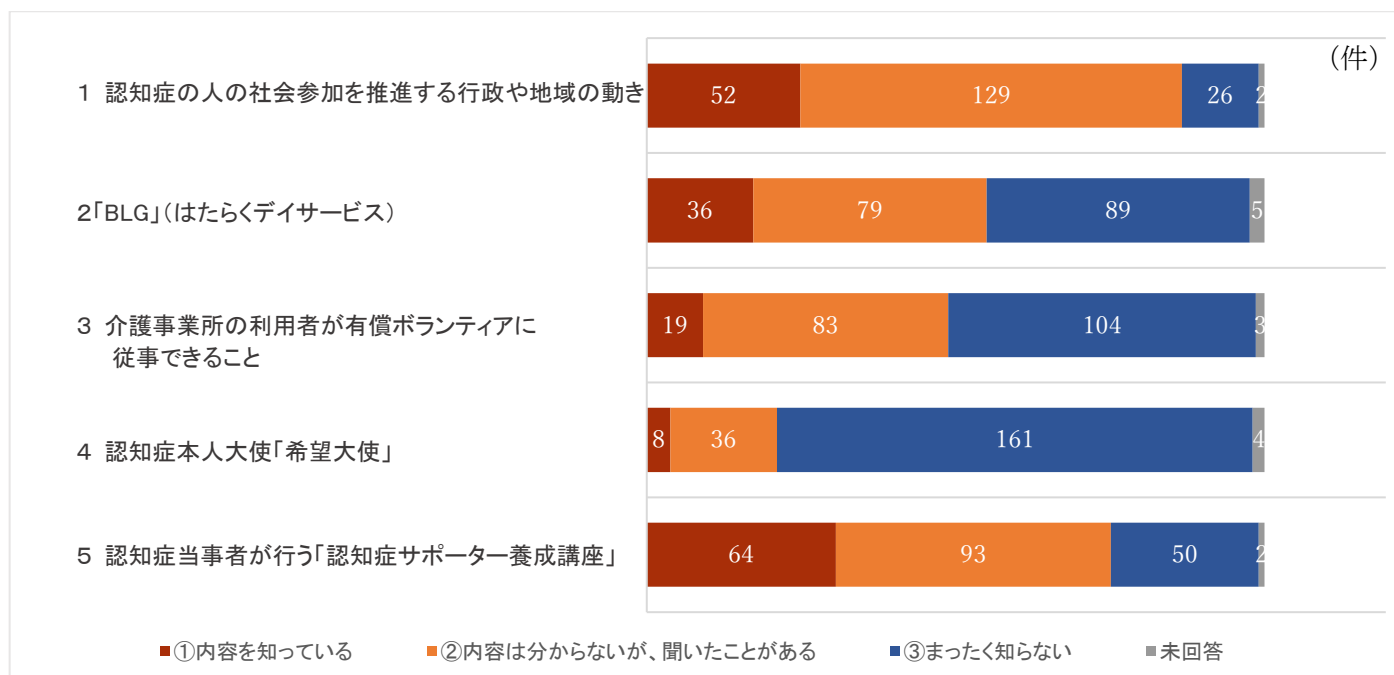


その他の内容：小規模多機能型居宅介護／看護小規模多機能型居宅介護／介護老人保健福祉施設

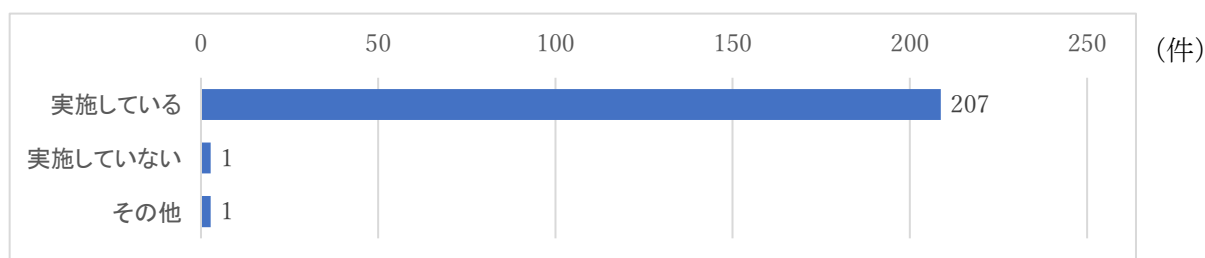
（３）事業所における認知症利用者（疑いの場合も含む）の有無について（N＝209）



(4) 認知症の方の社会参加の動きや取組の認知度について (N=209)

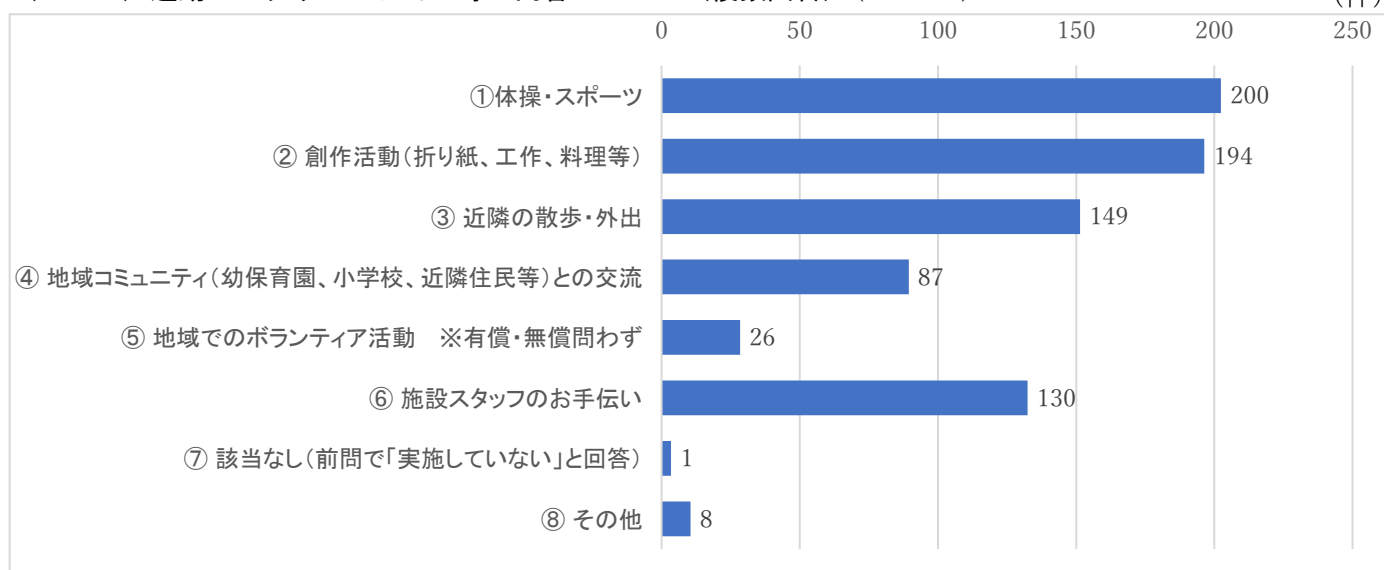


(5-1) 利用者に対する運動・レクリエーション等の実施有無について (N=209)



その他の内容：集団レクリエーションではなく、個々に社会資源を生かしながら活動を行っている。

(5-2) 運動・レクリエーション等の内容について (複数回答) (N=209)



その他内容：運動を通じて身体機能を維持していく。／遠方(車で片道1時間圏内)の外出・買い物／施設の裏の畑での野菜作り／コグニサイズ、デイの中での役割作り／家事手伝い(料理の盛付け、洗濯たたみ等)

（５－３）運動・レクリエーション等の内容で、利用者のために工夫していることについて （N=167）

○主な意見

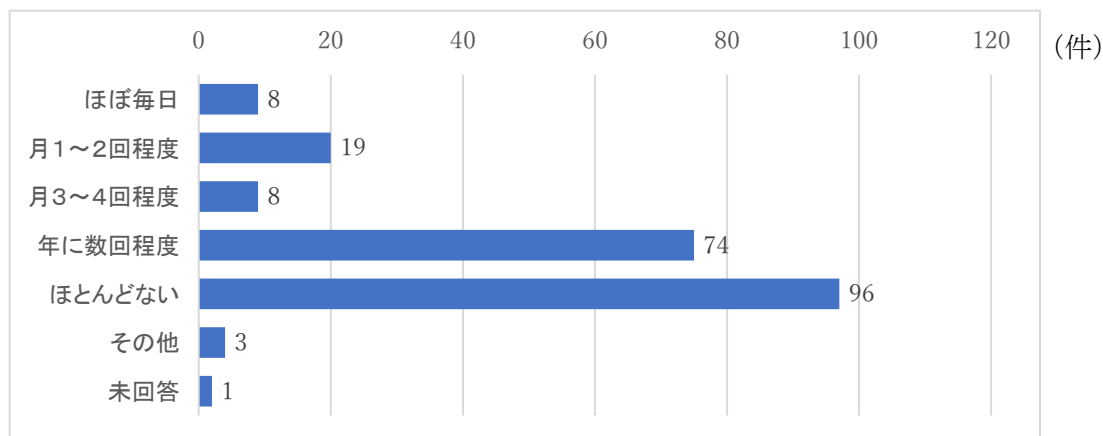
- ①本人の意思を尊重
- ②複数の活動の選択肢を用意
- ③個人の能力・特性に合わせた活動内容、個別対応
- ④全員が参加できるような配慮、コミュニケーションがとれる工夫
- ⑤季節イベントを取り入れた活動内容
- ⑥自立を促す活動（利用者の生活歴から馴染みのある作業活動を提供する事を心がける 等）
- ⑦ツールの活用（YouTube、ルームサイクル、ボール等）
- ⑧環境整備（座席位置の工夫、フロア床に距離を記載したマークをつける）
- ⑨外出、地域交流機会の確保
- ⑩認知症の症状に対する配慮（認知症の説明、認知機能レベルごとにグループ分け 等）
- ⑪その他

（６－１）介護事業所で「社会参加※」ができる機会（頻度）について （N=209）

※社会参加…ここでの「社会参加」は、施設外活動だけでなく、施設内にいても何らかのかたちで地域社会とつながり、役割を感じられることであれば社会参加に該当するとした。

（例）・地域の夏祭りに参加して地域住民と交流する

- ・自身の経験を活かして得意なことをする（絵や写真を地域の公民館等で展示する）
- ・地域企業と関わりを持ってはたらく（箱作り、洗車等）
- ・認知症の当事者としてできることをする（ピアサポート、ミニ講演会、政策評価等）



その他の内容：協力依頼があれば積極的に受け入れているが、当事業所からは求めにいけない／利用者、職員との会話と交流などでまかなっている。／参加したことがない。

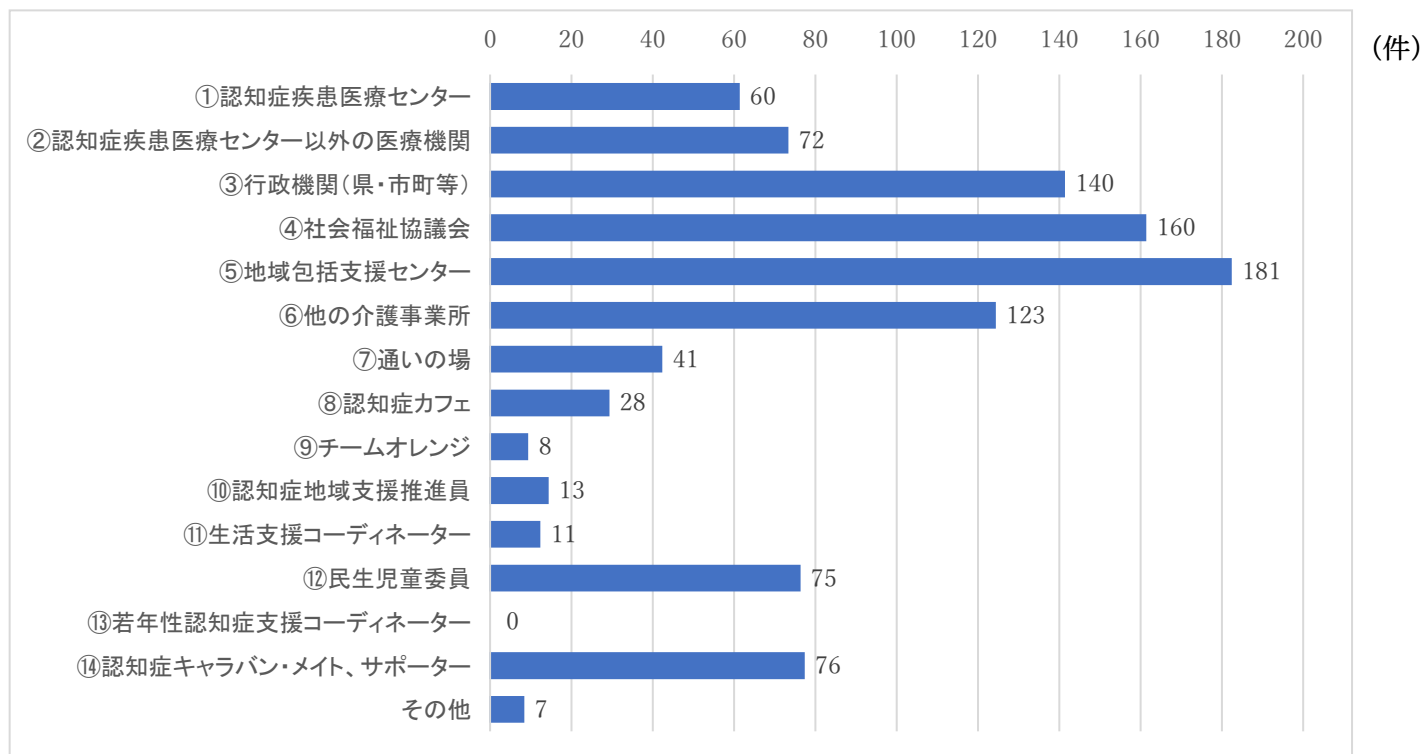
（６－２）介護事業所における社会参加活動の内容について （N=173）

○主な意見

- ①作品製作・出展
- ②地域地域行事への参加・交流（保育園や小中学生との交流、地域の祭り・防災訓練に参加 等）
- ③ハタラク活動（地域のカフェ店員、カプセル景品の詰め込み作業 等）
- ④その他
 - ・ボランティア活動（清掃活動、バルマーク・ペットボトルキャップ・古切手収集 等）

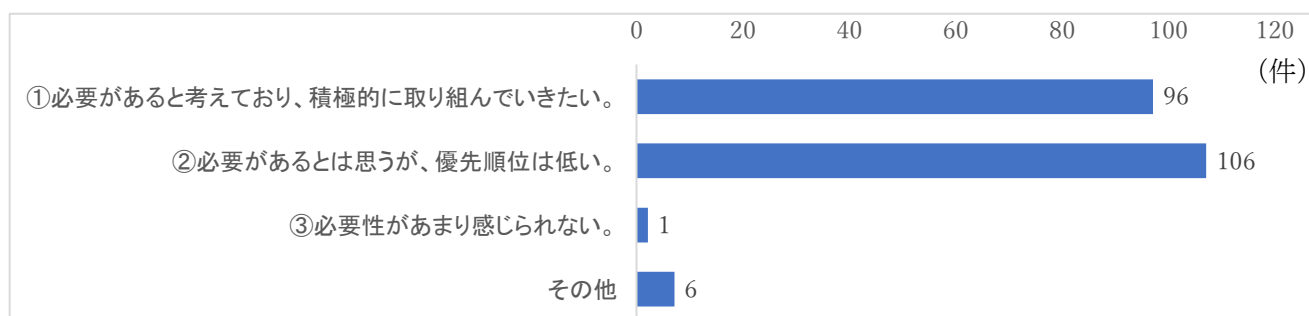
- ・自身の経験を活かして得意なことを行う
 - ・施設で製作したものを譲渡・販売する形式での交流
- ⑤「なし」または「ほとんどなし」（社会参加できる機会を知らない、人員不足 等）

（７）事業所として関わりのある地域資源について（複数回答）（N＝209）



その他内容：介護相談員／地域子供会／ご近所の子どもからお年寄りまで／近隣の商店／踊り・音楽サークル等

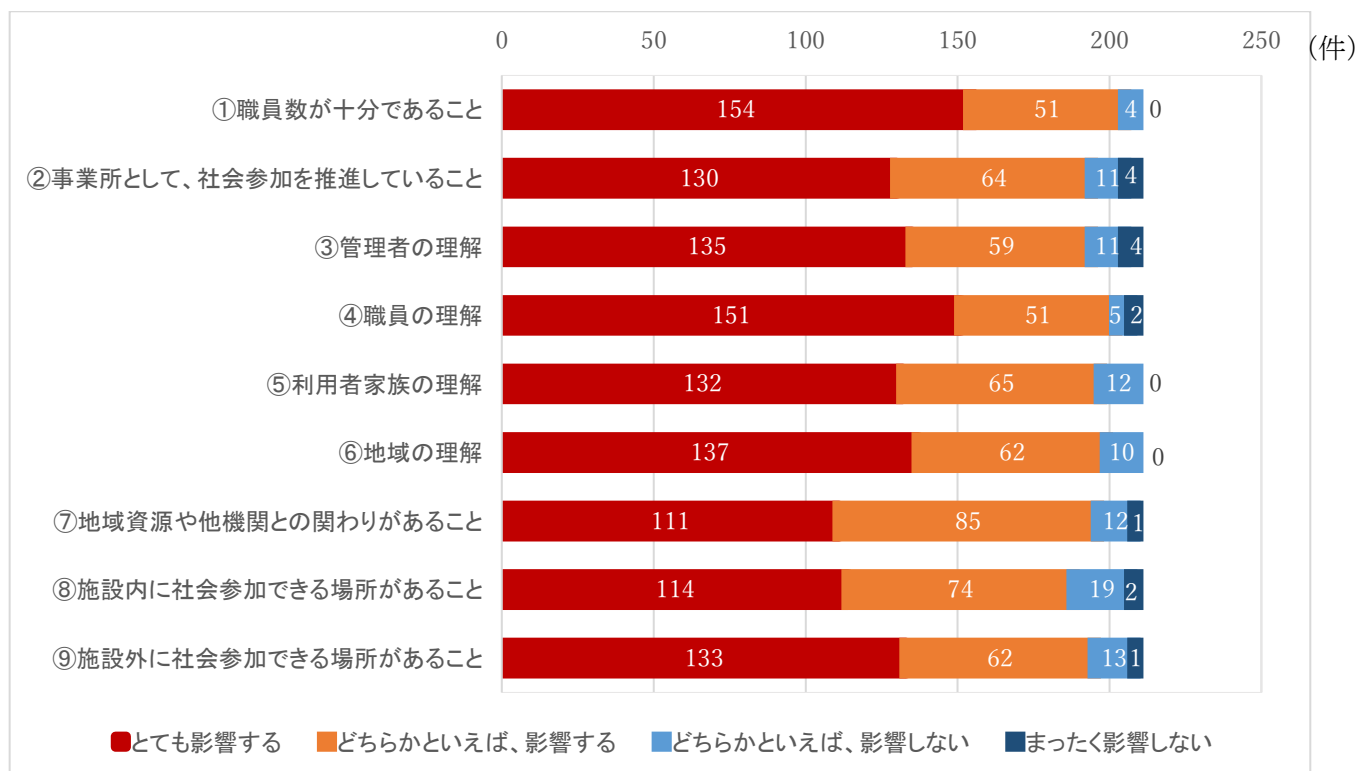
（８）事業所としての「認知症の方の社会参加促進」についての認識について（N＝209）



その他の内容：

- ・実現できれば意義があると思うが、現実的に障壁が多い。
- ・必要性はあると思うが、単独での行動は家族が望まず、地域参加のためには協力者が必要
- ・利用者さんのやりがい、生きていく価値を見出していただけよう模索している。
- ・必要性はあると考えるが、半日の時間の中で参加できる取り組みが分からない。
- ・重度認知症により見知らぬ者との交流は不安や混乱を招き、また大多数は普通の会話が成立しないと思われる。

(9) 認知症の方の社会参加を推進するうえで影響する要因について (N=209)

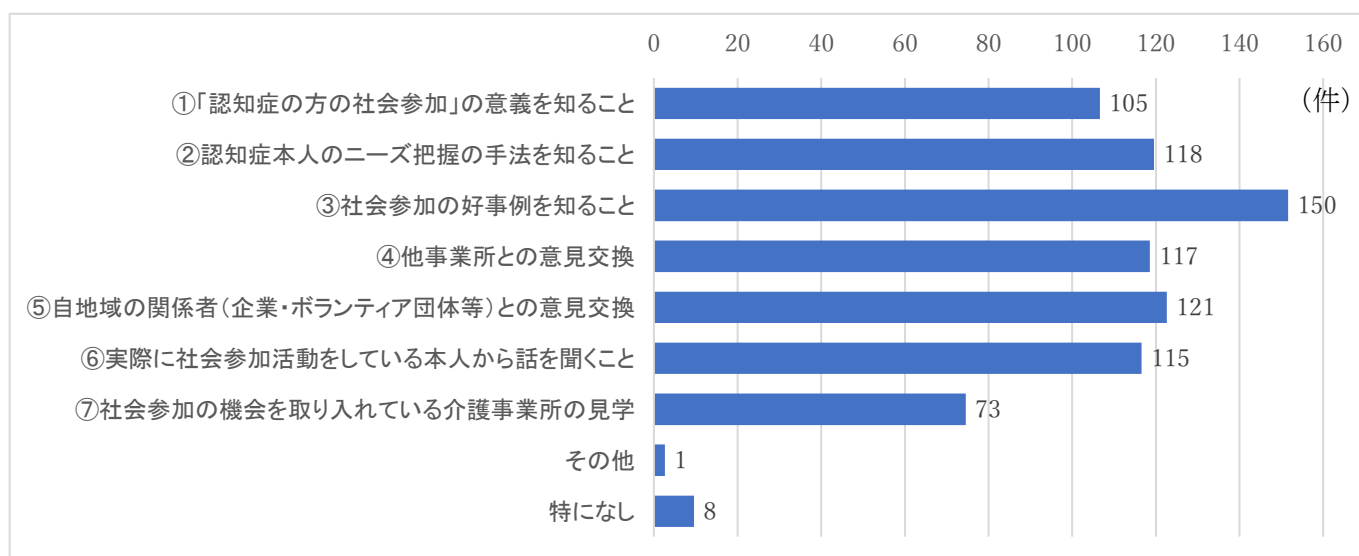


(1 0) 今後、社会参加を促進するうえで必要な支援について (自由回答) (N=52)

○主な意見

- ①知る機会・広報について
- ②社会参加活動や認知症に対する理解
- ③人員の確保 (移動支援や職員とともに引率・見守りができるボランティア 等)
- ④費用の補助 (事業所や参画企業・ボランティアに対する補助)
- ⑤企業に関すること
- ⑥社会参加が難しいと考える意見
- ⑦その他 (専門職の意識を変えること、施設外のバリアフリー化 等)

(1 1) 「認知症の方の社会参加」に関連する興味・関心がある事項について (複数回答) (N=209)



その他の内容：同様施設において実施されている社会参加事例

(12) 其他のご意見やご要望 (N=37)

・事業所により認知症重度の方の対応が多く、対象者が推進の取り組みに希望があるか今後検討いたします。
・関係機関の理解と協同が出来ると促進すると考えます
・今後も新しい情報が知られればと思います。
・認知症の方だけではなく、特に線引きはせず、(本人が) 社会参加したいという思いがあれば、いろいろな手段を使って社会参加活動を行っている。自身も含めた「知識不足」があるため「認知症は一律のものではないことを含め、ちゃんと認識することが大事」だと思います。自治体との連携をしながら、進めていきたいと考えています。
・一億総活躍社会の実現には、認知症を有している高齢の方も含まれていると思います。認知症でも出来る事の方が圧倒的に多いので、脳トレと評した子供じみたぬり絵などよりも、本物志向で大人じみた仕事をこなすことの方が認知症の進行を遅らせるなどの効果に期待が持て、社会参加（社会に貢献）にも繋がると思います。 事業所側も、例えば、” 男性の方はデイサービスに行きたくない ” という事が一般的にありますが、” きょうよう ”（今日用事がある）と” きょういく（今日行く）で仕事をしに行くという事が動機となれば、自ら行きたくなる魅力的なサービスになると思います。そして、デイサービスなどの稼働率もUPすると思います。 ・地域特性を生かした仕事の受注・発注のマッチングが出来れば、事業所ごとで売りが異なるブランディングになると思います。デイ等の稼働がUPするという事は、困っている方を救うヒーロー活動（公益活動）が出来ている事にもなって、魅力ある職種となり子供にも自慢できる社会的地位のある仕事になると思います。
・認知症の方の社会参加の拡大には、開かれた事業所になることが重要と感じる。家族や地域は事業所にお任せ。事業所は人手不足で、日々の業務で手がいっぱいな状況。その事業所の強みや取り組み、抱えている課題など、事業所同士や専門職同士が理解し合えておらず、個々の能力で留まっている等を感じる。事業所個々の能力を開かれた状況にすることで、更なる知識やパワーが生まれるのではないだろうか。そうすることで、必然的に地域のインフォーマルサービスも強化されていくのではと考える。
・社会参加の取り組みの具体的な例や社会参加推進を実践する中での課題などを知りたい。
・当事業所は昨年より、高齢者就労支援事業として【ショップライフ】という企画を始めました。現在売り上げは皆さんのアンケートのもとみんなの欲しいものを購入するというスタイルでやっています。DAYSBLGさんなど対価をご本人にお支払いするスタイルの事業所さんのお話は聞いてみたいです。当事業所の社会参加の取り組みがヒントになるようなことがあれば是非知ってほしいです。大したことはしていなくてちょっと工夫しているだけなのでできっとどの事業所もマネしていただけるのではないかな？と思います。
・利用者さんのためにもっと社会参加して活気のある生活を提供したいと思う気持ちは強い。しかし地域的に田舎であり、地域資源も限られているように思われる。付き添うスタッフも少なく移動手段も無いので、今からできる事から始めたいと考えている。
・超高齢化少子化の社会にあって、サポートする人員が大幅に不足している。日本だけで社会を支える考え方でなく、世界全体が支えあう国際社会の考え方が必要。日本だけで、人員、人材を検討しても、解決策は困難。外国人人材が安心して働ける社会保障及び、また小規模事業所における外国人人材を雇用する支援（住居や家族とともに暮らせる支援など）が必要
・認知症でもなんでも、多様性を受け入れられる寛容な社会になれば、誰もがもっと生きやすくなるはず
・社会参加という意識が不足しておもてなしのご利用を望むご利用者やご家族が多い傾向です。ご利用者の個々の能力を活かした活動を見出して生きがいとなるようご支援させていただけるようにしています。ただし、職員不足が否めないので苦労しております。
・認知症の方の社会参加はこれから必要となってくる為、積極的に参加を検討していきたい。
・家族・地域の配慮が必須。リスクが高いと事業所側は二の足を踏んでしまう。また、施設によって認知症の進行度到大

きな違いがある。認知症が一定より進行すると、社会参加の難易度が跳ね上がる。
・他事業所・他の地域との意見交換の場が必要だと感じます。
・地域との交流は必要と思いつつも、機会を逃している感じがします。介護施設同士の交流があると、色々な意見も聞けそうですが、今後はケアマネジャーさんから情報収集していきます。
・日々の業務等をこなすことで精一杯な状況で職員事態に余裕がないのが現実です。
・今後、春になったら GH の畑の草むしりのお手伝いをしていただく。利用者様が趣味で折り鶴を作っている。ボランティアで来られた方に折り鶴を使って物を作りお礼にお渡しする、等考えている。
・認知症の初期は自分の思いを伝える事もできるし、地域の中に居ても少しおかしいかなで終わるが、認知の進行した人に対して一般の方は変な物を見るような傾向が変わらず見られる。又公園でも「あんな風にはなりたくない」などの言葉も投げかけられる。地域もそうだが一般的な認知症の理解が欲しい。
・コロナ以前は地域の方との交流、行事に参加していました。ようやく本年度より緩和の流れに少しずつなっています。頂ける情報を吟味し、参加出来るようであるなら取り組みたいと思います。
・認知症の方が出来る事を考えていきたい。
・認知症の方々一人ひとりのニーズが異なること、出現している症状もお一人ごとに違うので、事業所ごとの取組では効率的な運営が困難であると感じます。より多くの方の参加のためには、効率的に運営するための事前のグループ化等が必要になると考えます。
・高齢者施設の認知症の方は、自宅から外出して通所サービスを利用するだけでも精いっぱいの方も多し。施設内での作業活動や作品を展示するなどの活動から取り組めると良いと考える。
・今回のアンケートで知識不足を認識できたので、通所サービスを利用する認知高齢者の社会参加に資する取り組みや支援団体などについて知識を深められると良いと考える。
・家族の理解が最も必要と感じる。人手が無いと外には出れない。
・社会参加に取り組んでいる事業所の意見やノウハウを聞きたい。
・全国区で成功している事例を知りたい。
・利用者が認知症カフェを利用するのなら、送迎できます。また有償ボランティアされる方がいるのなら少額にはなりますがお金か送迎ができます。
・思いはあっても、毎日の業務に追われておりジレンマに悩まされております。
・事業所側から発信し関係づくりをしていくことが一番重要だと思います。また、社会参加を推進する上では、他施設や企業、ボランティア団体等となどつながりを持つ機会があると推進しやすいと思います。企業側がボランティアとして求めていることなど（お手伝いの内容など）を把握できると事業所とマッチングさせ、社会参加として取り組む機会を作っていけるのではないかと思います。そういった活動が広がっていけると推進しやすいと感じます。上手く伝えられずすみません。
・社会参加に取り組まれている事業所の成功例をお聞きしたい。
・社会参加することでの利用者の変化などをお聞きしたい。
・始めは 30 分とか 1 時間とか短い時間から参加してみようかなと思う。
・他の施設の事例が知りたい
・施設に入所されても、その地域のサロンに参加させてもらえるようにしてほしい。また、民生委員や福祉委員の企画する行事や活動にも参加させてもらいたい。世間の人々は、施設が営利目的で運営しているからということで、地域の活動に参加するよう声を掛けてくれない。
・認知症の方に対しての理解をもっと、分かって頂ける社会を広げて欲しい。

・利用者にはできるだけ施設外での社会参加をさせてあげたいと思っている。現実には利用者自身の身体の問題や、付添としての職員体制の問題がある。
・認知症の方でも、「ありがとう」って言ってもらえる存在で居たいと思っている方が多いです。社会の皆様の理解！一人では難しくても皆ですれば！デイの職員のサポートがあれば！大きな事や普通に事は出来なくても、少し他者を笑顔に出来たり、少し社会に貢献出来たり、少し社会参加したりして、元気で生き生きした高齢者が増えたら良いなと思います。また、そんな高齢者にすくわれる人がいたら良いなと思います。
・サービス提供時間の中で社会参加の活動をした場合、リハビリ特化型としてのサービス内容を実施したと判断してもよいのでしょうか。活動内容にもよりますが。